

# 令和元(2019)年度 病害虫発生予報 第9号

令和元(2019)年12月20日  
栃木県農業環境指導センター

## 施設内の栽培環境を適正に保ち、果菜類の病害虫発生を抑えましょう。

予想期間 12月下旬～1月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

### 1 いちご 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや少ない**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は少ない(平年比0%：ほ場率)。(－)  
・向こう1か月の降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・下葉を除去し、風通しをよくするとともに、かん水過多にならないように注意する。  
・発病した果実、果梗等は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・発生初期に、セイビアーフロアブル20等を葉裏にもよくかかるように散布する。曇雨天時には、くん煙剤を使用する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

### 2 いちご うどんこ病

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない(平年比33%：ほ場率、平年比29%：株率)。(－)  
・向こう1か月の降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・軟弱徒長すると発生しやすくなるので、適正な温度管理やかん水を行うなど、ほ場管理に留意する。  
・発生を予防するため、硫黄粒剤でくん煙する。  
・発生初期に、フルピカフロアブル等を葉裏にもよくかかるように散布する。曇雨天時には、くん煙剤を使用する。
- (4) 備 考 ・硫黄くん煙は天敵に対し悪影響があるため、天敵を導入した場合は長時間のくん煙処理は避ける。

### 3 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比67%：ほ場率、平年比54%：株率)。(±)  
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。(＋)
- (3) 対 策 ・ほ場をこまめに観察し、増殖する前に防除を行う。  
・気門封鎖剤や天敵製剤を活用することで作全体の化学農薬の散布回数を減らし、ローテーション散布を行うことで抵抗性の発達を抑制する。  
・気門封鎖剤は卵に効果が低いため、5日程度の間隔をおき、複数回散布する。  
・葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

### 4 トマト 灰色かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量は平年並(平年比82%：ほ場率、平年比33%：株率)。(－)  
・向こう1か月の降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み。(±～+)
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。また、循環扇や暖房機等を用いた通風により、施設内の湿度低下に努める。  
・発病葉、発病果や花弁は伝染源となるので、速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・予防を主体にフルピカフロアブル等を葉裏にもよくかかるよう散布する。  
・発生が見られたらピクシオDF等を散布する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果①](#)、[②](#)を当センターHPに掲載中。

## 5 トマト 葉かび病

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない（平年比49%：ほ場率、平年比0%：葉率）。（-）  
・向こう1か月の降水量は平年並または多く、日照時間は平年並または少ない見込み。（±～+）
- (3) 対 策 ・施設内が多湿にならないように換気やかん水に注意する。  
・草勢低下は発生を助長させるので、適正な肥培管理を行う。  
・発病葉は伝染源となるため、発生初期に速やかに取り除き、施設外で処分する。  
・予防を主体にネクスターフロアブル等を葉裏によくかかるように散布する。
- (4) 備 考 ・抵抗性品種に発病するレースが確認されているため、抵抗性品種を栽培しているほ場でも、発生に注意する。[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

## 6 きく ハダニ類

- (1) 発生予想 ・発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・現在の発生量はやや少ない（平年比34%：ほ場率、平年比5%：株率）。（+）  
・向こう1か月の平均気温は高い見込み。（+）
- (3) 対 策 ・薬剤がかかりやすい生育初期からの防除を行う。  
・葉裏をよく観察し、発生が認められたら下葉や葉裏にもよくかかるように丁寧に気門封鎖剤やスターマイトフロアブル等を散布する。
- (4) 備 考 ・[薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

## 7 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
いちご	コナジラミ類	やや少	<b>平年並</b>	きゅうり	べと病	やや少	<b>平年並</b>
トマト	すすかび病	並	<b>やや多</b>	きゅうり	うどんこ病	平年並	<b>やや多</b>
トマト	黄化葉巻病	多	<b>多</b>	にら	白斑葉枯病	やや少	<b>平年並</b>
トマト	コナジラミ類	平年並	<b>平年並</b>	きく	アザミウマ類	少	<b>やや少</b>

- イネ縞葉枯病（媒介虫：ヒメトビウンカ）のウイルス保毒虫率の高い地点が確認されています。本年11～12月に実施した、ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の調査結果は、県平均が6.7%と平年並でした。県中南部では防除が必要とされる10%を超える地点が複数確認されたほか、県北部においてもやや上昇傾向にありました。詳細は当センターHPに掲載中の[植物防疫ニュースNo.9（水稲：イネ縞葉枯病）](#)を参照。
- RACコードを参考に、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。
- 花粉媒介昆虫のミツバチ、マルハナバチや天敵に対する影響日数に注意して薬剤を選択しましょう。
- 11月1日から1月31日は、「栃木県農薬危害防止運動期間」です。農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう。

### 1か月気象予報（予報期間12月21日から1月20日 12月19日気象庁発表）

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。向こう1か月の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、高い確率70%です。2週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

#### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

項目	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	20%	30%	50%
降水量	20%	40%	40%
日照時間	40%	40%	20%

詳しくは農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi\_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnpn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。